



学校だより

1月号

平成30年1月9日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 皆川 誠

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

新年あけましておめでとうございます

校長 皆川 誠

皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えになったことと存じ上げます。今年も皆様にとって良い年になりますようお祈り申し上げます。

昨年のことになりますが、12月12、13日には、本校6年生は、日光へ修学旅行に出かけました。当初は、10月下旬に予定されていましたが、台風の影響で延期となり、6年生の子どもたちにとっては、文字通り待ちに待った修学旅行となりました。

初日は、いろは坂を上って、華厳の滝・竜頭の滝・湯滝と滝めぐりを中心とした活動です。華厳の滝に到着し、バスから降りると、強く冷たい風が私たちを待ち構えていました。そして、竜頭の滝、湯滝と進むにつれて雪が深くなり、気温も-7℃まで冷え込みました。冬の日光の厳しさを、身をもって感じた1日目でした。

2日目は、前日の寒さを経験しているので、それほど気にはならなかったのですが、気温は0℃。この寒さの中、東照宮をはじめとした2社1寺の見学に出かけました。今年の修学旅行のスローガン「日光で歴史を学び、名を刻め」を意識して、真剣な表情で説明を聞いている姿が印象的でした。この時期なので、一般の観光客は少なく、ゆったりと見学することができました。

修学旅行は、小学校生活中で最も大きな思い出になる行事の一つであるとともに、重要な学びの場でもあります。この2日間を通して学んだことを、残り3ヶ月の小学校生活に生かし、洋三小のよき歴史をつくり、そこに名を刻んでいくことを期待しているところです。

さて、平成30年がスタートしました。今年は「戌年」です。戌年に使われている漢字、「戌」について調べてみると、もともと「滅（ほろぶ）」の意味があるそうです。しかし、この「ほろぶ」は、悪い意味ではありません。「戌年」の前の「酉年」は、成長してきた草木が実を結ぶという意味があり、一つの結果が出たともいえます。また、「戌年」の後の「亥年」は、滅びた後に新たな種子ができるという意味で、新たな生命の始まりを予感させる年ともいえます。つまり、「戌年」の「ほろび」は、実を結んだ草木がいったん枯れ、新しい芽吹きへと生命が繋がっていく大切なバトンタッチの意味をもっているということになるようです。

こうしてみると、「戌年」というのは、今の季節と似ているところはないでしょうか。例えば、校庭の桜は、今は葉が落ちて枝だけの状態です。秋から冬の間、知らず知らずのうちにエネルギーをためて、春の訪れを告げるかのごとく芽吹き、毎年美しい花を咲かせています。洋三小の子どもたちも、まさに今、上級生からバトンを引き継ぐ準備をしているところです。この時期にしっかりと力を蓄え、新年度には、洋三小のよさや伝統を引き継いでいってほしいと願っています。

今年度の授業日数は、残すところ1～5年生は52日、6年生は50日となりました。新年度に向けて、確実な歩みを進めて参ります。保護者の皆様並びに地域の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、本年もよろしくお祈り申し上げます。